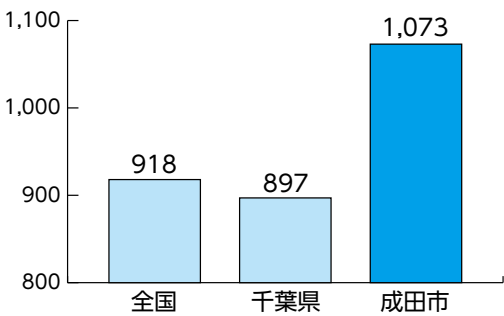


# そのひと手間が減量化への道



成田富里いずみ清掃工場に集まった可燃ごみ

1人が1日に出すごみの量の比較(図1)  
(平成30年度・単位:グラム)



全国平均より多い  
ごみ排出量

成田市のごみの現状

市内の家庭や職場から出るごみ(一般廃棄物)は、平成30年度は5万2,280トンで、市民1人1

成田富里いずみ清掃工場に持ち込まれる可燃ごみの量は処理量の上限を超えており、炉へ負担が掛かっています。ごみの削減は、私たちがすぐに取り組むべき大きな課題です。

日当たりに換算すると1、073グラムとなります(図1)。

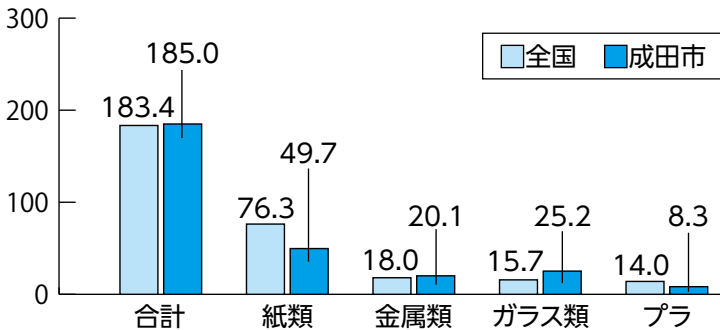
全国平均と比べると155グラム多く、県内平均より176グラムも多くなっていることが分かります。

生活系・事業系ごみ  
減らす努力を

1人1日当たりのごみの内訳では、家庭から出るごみ(生活系ごみ)は655グラムで、全国平均の638グラムより17グラム多くなっています。

また、会社や商店、工場など職場から出るごみ(事業系ごみ)は384グラムで、全国平均の280グラムより104グラム多くなっています。  
内訳で比較しても、生活系・事

1人1日当たりの資源化量の種類ごとの比較(図2)  
(平成30年度・単位:グラム)



低いリサイクル率

事業系ごみともに全国平均より多い状況です。  
出されたごみのうち、資源としてリサイクルされた量(資源化量)は9、009トンです。

また、どのくらいの量がリサイクルされたかを示すリサイクル率は17・1パーセントで、全国平均の19・9パーセントより2・8パーセントも低く、本市の課題となっています。

1人1日当たりの資源化量の内訳(図2)を見ると、金属類やガラス類は全国平均を上回っているものの、紙類は全国平均76・3グラムに対し49・7グラム、プラスチック製容器包装は全国平均14・0グラムに対し8・3グラムで、どちらも全国平均を大きく下回っています。資源としてリサイクルできるはずの紙類、プラスチック製容器包装が、燃えるごみとして処理されてしまっている状況がうかがえます。

## 「ごみの減量に一人一人ができること」

### 雑がみの回収にご協力を

雑がみとは、家庭から排出される古紙のうち、新聞(折り込みチラシを含む)・雑誌・段ボール・飲料用パックのいずれの区分にも入らない物をいいます。

具体的には、家庭で不要となった封筒・パンフレット・コピー用紙・包装紙・紙袋・ラップなどの芯・紙箱などです。

雑がみは大きさをそろえ、細かいものは紙袋に入れて、紙ひもなどで十文字に縛って出してください。その際、窓付き封筒やティッシュの箱などに付いているビニール

ルは取り除いてください。また、紙類の中には、リサイクルすることができないものがあります。

次の物については、雑がみとして回収することができませんので、可燃ごみとして出してください。

- 防水加工された紙(紙コップ・紙皿など)
- 写真・インクジェット写真プリント紙
- 汚れやにおいの付いた紙(せっけん)の個別包装紙・洗剤の箱など
- 圧着ハガキ

### プラスチック製容器包装を正しく分別

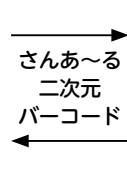
市では、プラマークのあるプラスチック製容器包装を、リサイク

ルできる資源物として収集しています。白色の指定袋に入れて、収集日に出してください。

### 収集は週に1回

各地域の収集日は市ホームページ

ps://www.city.naria.ch  
 ibajp/kuras  
 h/index015  
 5.htm)や、収集日が事前に通知されるスマートフォン用アプリ「さんあ〜る」で確認してください。



### 白色の指定袋に入れる前に

リサイクルできるかどうかを確認マークが付いています。ごみとして捨てる前に確認しましょう。

ポリバケツ、歯ブラシなど商品そのものがプラスチック製品である場合はリサイクルできないので、可燃ごみとして捨ててください。軽くすすいで、汚れやにおいを落とす

納豆のパック、シャンプー・リンスの容器など、すすいでも汚れやにおいが取れない物は可燃ごみ

として出してください。

**二重袋は禁止**  
 プラスチック製容器包装をレジ袋に入れてから、その袋を指定袋に入れて出すと選別作業の妨げになります。白色の指定袋に直接入れましょう。

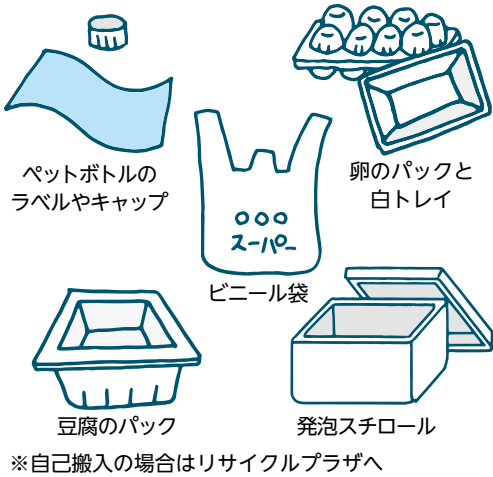
### レジ袋の有料化

プラスチックごみによる海洋汚染などの環境問題対策の一環として、全国でレジ袋が有料となりました。エコバッグを持ち歩くなど削減しましょう。

※くわしくはクリーン推進課 ☎ 20・1530へ。

## プラスチック製容器包装の分別例

出せるもの プラマークのあるもの



出せないもの(可燃ごみ)



## 誤った分別は危険です

電子タバコやモバイルバッテリーなどに内蔵されているリチウムイオン電池は、発火や爆発するおそれがあります。火災や作業員のけがの原因となりますので、リチウムイオン電池はごみとして捨てず、本体から取り外して家電量販店などに持っていきましょう。

